別記

審議概要

１　公開案件の審議

(1) 報告１　「Ｓ－ＴＥＡＭ教育推進事業」（令和４年度～令和６年度）の実施状況等について

ア　説 明 員　山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長

イ　結　　論　報告を了承

ウ　審議内容

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

資料２ページを御覧ください。はじめに、「１　事業の趣旨等」についてですが、本事業は、各教科での学習を実社会での問題発見や解決に生かしていくための教科等横断的な教育であるＳＴＥＡＭ教育を推進し、将来の北海道を支える人材育成を目的としており、北海道大学などとの四者連携に基づき、生徒の探究的な学びの充実を図っています。

次に、「２　事業の構成」についてですが、表のとおり、本事業は三つのプロジェクトで構成されています。

それでは、各プロジェクトについて、令和４年度（2022年度）の取組を説明します。「３　令和４年度（2022年度）の事業内容」を御覧ください。

まず、「（１）「社会との共創」推進プロジェクト」についてです。「アントレプレナー教育型」、「地域課題解決型」、「科学技術活用型」の三つの類型を設定し、大学や企業、自治体等と連携し、実社会の課題解決につながる探究活動に取り組みました。昨年８月には、オンラインセミナーを開催し、ニトリによる企業の現状や課題に関する説明や、北海道大学によるワークショップや演習等を行うなど、取組の充実を図っています。

次に、「（２）「探究」チャレンジプロジェクト」についてです。各地域において探究活動の成果発表会を実施し、各地域の代表生徒による全道成果発表会「探究チャレンジ・北海道」を開催しました。

次に、資料３ページを御覧ください。「探究チャレンジ・北海道」の概要をまとめたものですが、全道各地域から延べ228校、859名が参加し、代表に選出された25校84名の生徒が北海道大学において、探究活動の成果を発表し、質疑応答を通じて交流しました。

ここで、生徒の発表の様子を実感していただくために、当日、ＹｏｕＴｕｂｅ配信をした動画の一部ですが、浦河高校の発表を御覧いただきます。

（動画を視聴）

この「探究チャレンジ・北海道」では、優秀校に対し、北海道知事賞など六つの賞を授与いたしました。受賞校は、今月15日、16日に札幌ドームで行われました、Ｇ７札幌気候・エネルギー環境大臣会合記念イベント「環境広場ほっかいどう2023」でステージ発表を行うなど、探究活動の成果を多くの方々に発信したところです。

次に、「（４）「ＳＴＥＡＭ」推進プロジェクト」についてです。本事業では、生徒の育成を支える基盤となるプロジェクトとして、大学等と連携した授業研究を通じて、各教科の授業改善を推進したり、学校に対し、外部講師を招へいする費用を支援したりする取組を行っています。

最後に「４　成果と課題、今後の取組」について説明します。成果としては、本事業に参加した９割以上の生徒が、情報活用能力や問題発見・解決能力など資質・能力の向上を実感できたと回答したことなどが挙げられ、実りある取組だったと考えています。

一方、課題としては、各学校の取組状況に差が見られることから、探究活動の指導体制や生徒の探究活動の質の一層の向上を図る必要があると考えています。

今後の取組しては、成果と課題を踏まえ、昨年度の生徒の発表を好事例として、指導主事の学校訪問などで周知するほか、「社会との共創」推進プロジェクトでは、成果を英語で発表する「グローバル型」を新設、また、「探究」チャレンジプロジェクトでは、他都府県の高校生と探究活動の成果を交流する「探究チャレンジ・ジャパン」を新たに開

催することとしており、今後とも、生徒の探究的な学びを一層充実させる取組を進めていきます。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

静内農業高校や名寄高校などの受賞校のスピーチはＹｏｕＴｕｂｅなどで聞けないのですか。

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

撮っていないです。

【青山委員】

「環境広場ほっかいどう2023」に行きまして、ステージ発表とブースのプレゼンテーションを聞かせてもらったのですが、とても上手で、受賞校が参加していたということで、非常に納得しました。

また、感想になりますが、228校で800名以上の子供たちが探究をして、受賞できなかった子たちは残念でしたが、とても良い刺激になったのではないかなと思いました。たくさんの子供たちに影響があって、成果があったのではないかと思います。

３年くらい計画があるということですが、今年、来年、再来年と楽しみです。

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

昨年度は１年目ということで、本当に手探りでやったので、受賞校６校が今年度、２年目の各校の目標といいますか、御手本になるかと思いますので、私たちも取組を広げていきながら、底上げを図っていきたいと思います。

【青山委員】

今年受賞した６校の動画があると、今年度、来年度と更にブラッシュアップされるのではないかと思いますので、まとめておくといいのではないかと思います。

【川端委員】

動画を見て、一生懸命取り組んだことがよく分かりました。参加した生徒たちは中心になってそういうプレゼンテーションができる子たちだと思うのですが、学校全体として、そういうことが苦手な子たちに、探究の授業を通して、自分の苦手なところをどう改善していってもらうかが、今後の広がりに関わってくるのではないかと思います。今回の好事例も活用しながら、先生方の指導の仕方も含めて、全体の底上げを図っていただければと思います。

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

表現力も今求められる資質・能力の一部ですので、言葉で発する以外にも、例えば、ＩＣＴ機器を使ってのプレゼンテーション力や、様々な形で相手に伝えるという表現力も一つの課題として、生徒全てが考えられるように、今後も指導していきたいと思います。

【大鐘委員】

「探究チャレンジ・北海道」の会場に実際に行って見学させていただき、先ほど成果を最後に話されていましたが、生徒の情報活用能力をはじめとして様々な資質・能力が向上しているということを実感して感銘を受けたのが記憶に残っているところです。実社会の問題解決に向けた学びが今後、主流になっていくのだなということを予見することができました。

２点質問なのですが、１点目が、３（１）の「「社会との共創」推進プロジェクト」の学びの三つの型の枠組みが今後どうなっていくのかなということで、「グローバル型」が今年度新設されるということですが、これらの型が便宜的に作ったものなのか、どの程度この学びを方向付けていくことになるのかということです。例えば、賞として六つの賞が今回設けられましたが、この賞は型とは関連せず、横断的な、総合的な受賞になるのかなと感じています。現実的にはアントレプレナー教育型とか地域課題解決型とか科学技術活用型が、多くは複合的に含まれている学びになるのかなと思いますが、この三つの型、四つの型が今後どういうふうになっていくのかなというのが非常に興味深く思っています。

２点目は、「探究」というのが「総合的な探究の時間」に直結すると思いますが、資料を見ますと、「教科等横断的」とか「授業改善」とか「教員研修」という言葉が出てきて、探究の時間を超えて、全教科にわたっていくような、学びの在り方として、ＳＴＥＡＭ教育というのを位置付けることになっていくのかなと感じたのですが、その辺のお考えを教えていただければと思います。

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

型についてですが、先ほど説明したように、今年度については、成果を英語で発信する「グローバル型」を加えようと思っています。既存の三つの型につきましても、大鐘委員が言われましたように、複合的に関連するものですので、このように型を示すことが生徒や学校にとって分かりやすいのか、取り組みやすい形を検証している最中ですので、変わる可能性もあります。

賞につきましては、それぞれの賞に評価基準を設けていまして、例えば、札幌市長賞については課題の設定の仕方の視点で順位を付けています。また、ニトリ賞については、探究活動の独自性という視点で審査員の方に点数を付けてもらっています。六つそれぞれ視点を変えた形で、昨年度は行っていました。これについても検証しながら、今度はジャパンということで他都府県も参加しますので、評価の仕方についても検討していきたいと考えています。

２点目の質問についてですが、やはり教科等横断的な探究、国語、数学、保健体育や家庭科の中でも探究というものを一つの指導の手法として考えていかなければならないということで、今年度も道立教育研究所で行う教員向けの研修で探究講座を行い、その中で探究を軸とした授業改善について、先生方への研修を行っていきます。また、今年度における指導主事による学校訪問の際のテーマとしても教科等横断的に行う探究活動ということで各学校の先生方に指導助言をしていく予定となっています。

【大鐘委員】

受賞に関してですけれども、評価の在り方によって取組の在り方を

方向付けることになると思いますので、そのときの三つの型と評価の観点というものを今後検討していく必要があると感じました。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

≪委員から質問・意見なし≫

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(2) 報告２　令和５年度全国高等学校総合体育大会北海道実行委員会第４回総会について

ア　説 明 員　山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長

イ　結　　論　報告を了承

ウ　審議内容

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

資料２ページを御覧ください。本総会は３月22日に、リモートにより開催しました。総会では、事務局から実行委員会で設置している専門部会における決定事項や競技種目別大会の収支予算などの報告事項を説明した後、議事として、一部変更した競技会場・競技日程や事業報告、事業計画、収支予算などについて御審議いただき、承認をいただいたところです。

事業報告では、前回大会である四国大会の視察や、大会のサポートを行う高校生活動の取組などを報告し、事業計画では、審判や記録など競技を運営するための役員や、運営を補助する生徒への協力依頼、また、高校生活動による広報活動の実施などについて報告しました。

今月15、16日の土日には、「Ｇ７札幌　気候・エネルギー・環境大臣会合」を記念して札幌ドームで開催された「環境広場ほっかいどう2023」において、高校生が自分たちで考案したインターハイにおけるＳＤＧｓに向けた取組を紹介しました。翌週23日の日曜日には、北海道コンサドーレ札幌のホームゲームにおいて、道内の会場地や競技種目についてのパネル展示や、オリジナルグッズのプレゼントなどを行う取組など、高校生による広報活動を積極的に進めています。

本日で総合開会式の開催まで残り86日となりました。恐らくはコロナ対策が緩和され、４年ぶりの制限の少ない全国大会となる予定です。残りわずかな期間ですが、機運の醸成に向けて広く道民の方々にＰＲをしていくとともに、引き続き、全道の高等学校、会場地となる市や町、関係機関、関係部局と連携し、協力も得ながら、インターハイが万全の体制で実施できるよう、準備を進めていきます。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【大鐘委員】

全体的な準備の進捗状況がどうかということと、５月８日からコロナ対策が緩和される予定ですが、それに関わって、大会の方向性がどうなるかということを教えていただければと思います。

36年ぶりの北海道における開催ということで、大変な労力を皆さん負担されていると思いますが、引き続きどうぞよろしくお願いします。

【山城指導担当局長兼新型コロナウイルス感染症対策担当局長】

進捗状況については、当初はコロナ禍ということでスタートが遅れ気味ではあったのですけれども、残り３か月を切りまして、生徒活動、それから各高等学校におけるＰＲ活動であるとか、会場地における会場地担当教諭と行政の職員による地域での機運醸成であるとか、そういったものが少しずつ進んできていますので、ある程度予定通り進んできています。

また、コロナ対応につきましては、恐らく、本日の未明に５月８日以降の各学校における対応についての通知が出ると思います。それに基づいて各競技団体、また、全国高体連の方でも、どのように大会制限を行うのかということについて通知が出ると予想されますので、それをもって準備を進めていきたいと考えています。より一層関係機関との連携を密にしながら、迅速に対応していきたいと思います。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

≪委員から質問・意見なし≫

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。